



「ウミニー、  
ふたりのちからをあわせるために  
おいらとがったいしよう！」

ジンベイザメはそういって、  
ウミニーのあたまにかぶりつきました。

ウミニーたちがおよいでいると、ゴミのやまがあらわれました。

そのなかから、ゴミのようせいゴミニーがとびだし、  
おそいかかってきました。  
「うわー！」

ウミニーたちはゴミニーとたたかいますが、まったくかないません。





ウミニーはふたたびゴミニーをたおしにいきます。  
しかし、ゴミニーにはゴミのちからがあるので  
まったくききません。

「ゴミをひろって海をきれいにすれば  
ゴミニーをたおせるはずだ！」

ウミニーはゴミひろいをしますが、ゴミがへりません。  
「だれかー！！ぼくにちからをかしてくれー！！」



ウミニーのこえをきいて  
海のいきものたちがあつまってきました。

みんなでゴミをひろうと、  
ゴミニーはキラニーにもどっていきました。

「キラニー！もともどってよかったー！！」

キラニーからゴミ・ゴーニをたおすハブラッキーを  
もらったウミニーは、  
キラニーたちといっしょに  
ゴミ・ゴーニをたおすたびにしゅっぱつしました。



「ぼくちゃんゴミ・ゴーニ！きたないのだーいすき！」  
とつぜんウミニーたちのめのまえに、  
ゴミ・ゴーニがあらわれました。

「おまえがゴミ・ゴーニか！どうして海にゴミをながすんだよ！」

「海にゴミをながしているのは、ぼくちゃんじゃないよー。  
ゴミはかってにどんどんながれてくるんだよー。」

なんと、  
ゴミをながしていたのはゴミ・ゴーニではなかったのです。

「それなら、ゴミはどこからながれてきているというんだよ。」

「ゴミは、ニンゲンってやつが  
たくさんながしてくれるんだよー。  
ゴミいっぱい海、きったなくてさいこうじゃないか！」

「海はきれいなところなんだ。みんなでゴミをひろおう！」

ウミニーたちは、  
海をきれいにするために、またゴミひろいをはじめました。

ウミニーたちは、  
ちからをあわせてゴミをひろいますが、  
ゴミはなかなかへりません。



そのころ、  
ウミニーがうまれたがっこうのこどもたちが、  
海にあそびにきていました。

「めずらしいいきものにあえるかなー。」  
「みて、また海がゴミだらけになってるよ。かなしいね。」  
「海のいきものたちのためにゴミひろいをしないとね。」  
「そうだね。ゴミひろいしよう！」

こどもたちがゴミをひろってくれたので、  
海はもとのきれいなすがたにもどりました。

「うわー！！ゴミが、ゴミがなくなってしまう・・・。」

ウミニーたちと子どもたちのおかげで、  
海のなかからゴミがきえていきました。

ゴミのちからがなくなり、  
ゴミ・ゴーニは、みるみるちいさくなっていきました。  
「や、やめてくれー！！」

「やったー！！ゴミ・ゴーニをたおしたぞー！！」  
「海もきれいになったよ。」





きれいになった海のなかで、  
ウミニーたちはきょうもたのしくくらしています。

「ゴミがふえたら、ぼくちゃんまたやってくるからねー。」  
どこかからゴミ・ゴーニのこえがきこえてきます。

「ゴミだらけにはもうさせないよ。  
きれいな海をずっとまもっていくんだから。」

# ウミニ-の大冒険

## が できるまで

がっこうのすいそうであまれた「海のようせい」。いきものたちにおしえてもらったキラキラな海にいきたくなり、フグのちからで海にとびだす。たどりついたすなはまで「ゴミ」をしり、「キラキラな海をとりもどしたい!」とおもって、ぼうけんにしゅっぱつする。

ウミニ-



海をキラキラにするようせい。キラニーがいなくなると、海がきたなくなるといわれている。ゴミのおうさまゴミ・ゴーニにあやつられ、ゴミニーになってしまうが、ウミニーたちにたすけられて、いっしょに海をきれいにする

キラニー



ジャンバイザメ

ウミニーがぼうけんをはじめ、さいしょにであったおともだち。つよがりなせいかくで、ゆうきがあるフリをしている。からだがとてもおおきくてやさしいので、コバンザメやちいさなさかなたちにすかれています。

サンゴタツ



タツノオトシゴのなかま。からだがちいさい。

フグ



おおきなヒレで、かいすいをよくとばす。

ハリセンボン



みずでっぼうがとくい。おこるとからだのハリでこうげきする。

コブヨコバサミ



おおきなヤドカリ。キラキラな海がだいすき。

アカウミガメ



海のゴミがふえてこまっている。



ゴミ・ゴーニ

ゴミのおうさま。ゴミがたくさんあって、きたない海がだいすき。ゴミを海にながしてきたなくしているとおもわれていたが、じつは……。

わかとしょうがっこうのきょうしつからは、海がみえます。たいようのひかりがはんしゃして、いつもキラキラしています。わたしたち4ねんせい、この「海」をテーマにそうごうてきながくしゅうのじかんのべんきょうをしています。

海にいていそあそびをしたり、がっこうのげんかんにすいそう「わかとすいぞくかん」において、海のいきものをそだてたりしています。わかとすいぞくかんでは、ちいさなタツノオトシゴ「サンゴタツ」、おおきなヤドカリ「コブヨコバサミ」、がっこうのちかくの海でつれた「フグ」、みずでっぼうがとくいな「ハリセンボン」、いそあそびでみつけたちいさなさかなやカニ、ヒトデなどをそだてました。

みりよくてきな海のいきもの、だいすきな海。でも、かいがんにながれつく「ゴミ」はなんとひろってもなくなりません。ゴミひろいのに感じた「とてもきたない!」というきもちと「だいすきなキラキラした海をまもりたい!」というきもちを、いろいろなひとにしてもらうために、この「ウミニーのだいぼうけん」をつくりました。

ウミニーはすいそうをとびだし、海をキラキラにするためのぼうけんをはじめます。ですが、ゴミのちからはつよく、ひとりでは海をきれいにできません。海のいきものたちやキラニーといっしょに、ゴミのおうさまゴミ・ゴーニにたちむかいますが、それでもちからがたりず、こまってしまう。そのとき、ニンゲンのこどもたちが海のゴミをひろい、ウミニーたちのちからとあわさってキラキラな海をとりもどすことができます。

海のゴミは、ニンゲンたちがだしたものです。ウミニーたちにたよるのではなく、わたしたちも、だいすきなキラキラした海をまもるために、これからもかつどうをつづけていきたいです。